

留学体験記

ニュージーランド・オークランド大学 ELA で過ごした 3 か月

JSAF FLAP 留学レポートより

「うまくいかないことがあっても、それも含めて全部が大切な経験になると思います。周りの人との出会いや、授業、日常生活を思いっきり楽しんでください。」

留学先	オークランド大学イングリッシュランゲージアカデミー (University of Auckland ELA / ニュージーランド・オークランド)
在籍大学	京都産業大学 文化学部 国際文化学科 3 年
留学期間	2025 年 9 月～12 月(3 か月)

※本体験記は派遣生の FLAP 留学レポートをもとに再構成したものです。

1. 留学の目的

今回の留学の目的は、英語力を向上させることと、現地の生活を実際に体験することでした。3 か月の留学生活を終えて、この目的は達成できたと感じています。

2. 語学学校と授業

■ 学校とクラスの概要

項目	内容
受講コース	General English course
クラスレベル	留学開始直後: Upper Intermediate / 最後に受講したレベル: Intermediate
学校の学生数	約 400 名(うち日本人約 50 名・13%)
クラスの平均人数	約 18 名(うち日本人約 14 名)
クラスメイトの国籍	韓国、中国、タイ、サウジアラビア
使用教材	VOICES (Upper Intermediate / Intermediate)、ENGLISH FILE Intermediate Student's Book (third edition)

キャンパスにはコーヒーマーカーが設置されていたり、お菓子や飲み物の自動販売機があったりしました。Student Lounge には学生が休憩やお昼ご飯のために集まっていて、自然と違うクラスの人と話すことができる環境が整っていました。学校のおすすめポイントもこの Student Lounge があるところで、クラスの壁を越えて友達を作りたい人におすすめしたいです。

担当の先生は、クラス全体が授業のペースについていきやすいように、分かりにくくて難しい英語はかみ砕いて話してくれました。グループワークがあるときは、例も出して説明してくれました。学校のスタッフの方々も明るく話やすく、特にクリーナーの方は生徒と近い距離で話してくれていました。

■ 授業の内容

授業はプレゼンテーションやペアワークが多く、日本の授業との違いを感じました。面白かったのは、Festival についてペアでリサーチしてパンフレットを制作する授業です。日本の祭りについて紹介しましたが、自分の知らなかった伝統的な言い伝えや祭りの概要について深く知ることができました。

■ がんばったこと

特に頑張ったのは、調査を行いクラス全体にプレゼンテーションをする授業です。自分たちで決めた調査内容についてクラス外で調査をし、パワーポイントにまとめて発表しました。調査のために質問を 10 個考えなければならなかったことや、調査から何が分かったかをまとめる作業がとても大変でした。

苦労したのは、旅程を立ててプレゼンテーションする授業です。3 日間のオークランド市内での旅行日程を、時間や宿泊施設まで正確にしてプレゼンテーションを行いました。グループ内で解釈の違いから少し不穏な空気が流れたこともありましたが、最終的には協力して発表を終えることができました。

3. 語学力の伸びと工夫

スキル	苦労した点	工夫した点
リスニング	話すスピードが速かったり、難しい単語を聞き取ろうとして、結局最終的に何が言いたかったのかが分からないことがあった。	一言一句聞き取ろうとはせず、聞こえてくる単語に重きをおいてリスニングするようにした。
スピーキング	言いたいことをそのまま言おうとして、言葉が出てこなくなることがあった。	違う言い回しを考えるように意識して会話をした。
リーディング	関係代名詞が出てくると読むことが難しいと感じることがあった。	関係代名詞について練習問題を解いてみて、使い方を学ぶようにした。
ライティング	時制や主語に苦戦した。	書こうとしている内容は未来・現在・過去のどれなのか、また「私」のことなのか友達を含めた「私たち」のことなのかを考えて書くように心がけた。

勉強に役立った方法としては、ポッドキャストの「BBC 6 分間リスニング」を毎日聞いて、シャドーイングをしていました。

英語力は、日常生活にあまり支障が出ないくらいはついたと思います。当初はホームステイ先の家族の言っていることが理解できませんでしたが、最後には理解できるようになったと感じるからです。

4. 滞在先と生活

■ 滞在先と食事

滞在先はホームステイで、1 人部屋でした。通学はバスで 30～40 分、通学費は月 186 ドルほどでした。部屋には机、いす、クローゼット、ハンガー10 本くらい、小さめのたんす、ドライヤーが備え付けられていて、トイレとお風呂もありました。

ホストファミリーは、私のことを見守ってくれるやさしい方でした。お風呂は 10 分以内、洗濯は土日のどちらかで夕方 17 時までというルールがありました。コミュニケーションでは、笑顔で目をみて話すことを意識しました。

食事は、朝は自分の部屋でゆで卵とソーセージを食べ、昼は自分で買った食パンとジャムでサンドイッチを作って学校に持って行きました。夜はホームステイのリビングで、ホストファミリーが作ってくれたご飯を食べていました。

■ 1 週間の過ごし方

平日は毎日、レッスン 1(2 時間)→休憩 15 分→レッスン 2(2 時間)という流れで授業を受けていました。土日は友達と朝から出かけていました。日本の家族や友達とは、週に 1 回くらい LINE で連絡を取っていました。

■ 街と治安

学校から 10～15 分歩けば飲食店やカフェ、洋服屋さんがあり、学校終わりでも出かけやすい環境でした。キャンパス内は Student Lounge や教室の外で会話している人を見かけ、いい雰囲気だと感じました。キャンパス外も比較的治安はいいように感じましたが、時々、路上で大声でお金を要求している人を見かける場面もありました。

おすすめスポットはアルバートパークです。花が植えられていて、噴水もあり、ベンチもいくつかあって、とてもリラックスできる場所でした。

■ 交友関係

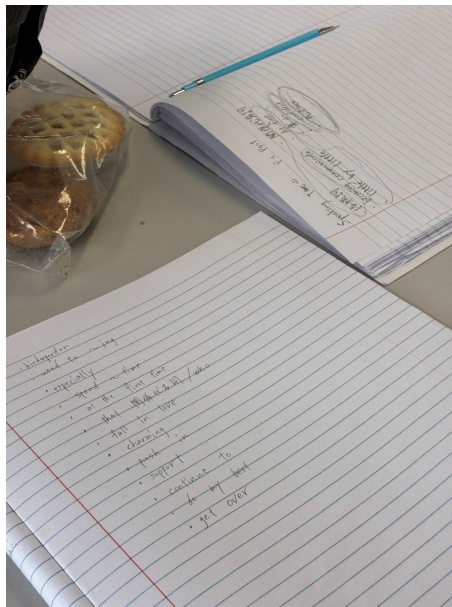
クラスルームではなるべくスマホは触らないように意識しました。質問をして 1 ターンで終わらせるのではなく、そこから深掘りした質問をたくさんするように心がけました。現地の友達とは、一緒に休日の予定を立てて出かけました。一番の息抜きも、友達と出かけることでした。

5. 休日の思い出

留学生活で最も良い思い出は、現地でラグビーの試合をスタジアムまで見に行ったことです。一方で大変だったのは、留学の最初の頃にバス停が分からなくなったことです。



休日に訪れたビーチと、現地での食事



授業のノートと、街のカフェのショーケース

6. 費用と持ち物

項目	内容
生活費(月のお小遣い)	10 万～12 万円くらい
通学費	約 186 ドル／か月(バス)
持ってこなくても良かった物	洗濯ネット、ハンガー、シャンプー、ボディーソープ
持っていった便利だった物	鏡、部屋用のスリッパ

7. 留学を終えて

留学を通して、物事の見方が柔軟になったと感じています。自分の空間を大切にする人もいるということを知り、出発前と比べて留学先の国や人へのイメージも変わりました。

今までは日本という狭い空間で物事をとらえていましたが、今回の留学を通して、人との関わりや生活をする中で徐々に考えが広がり、変化していったことが嬉しいです。これからは、もっと英語力をあげられるように、英語の勉強を継続したいと思います。

JSAF との定期的なメールのやりとりがあることで安心感があり、気軽に質問しやすい環境があったことがありがたかったです。

8. 後輩へのメッセージ

最初は不安なこともたくさんあると思います。しかし、その中で新しい発見も多く出てくると思います。うまくいかないことがあっても、それも含めて全部が大切な経験になると思います。

周りの人との出会いや、授業、日常生活を思いっきり楽しんでください。応援しています！ 素敵な留学生活になりますように。

本体験記は、JSAF 派遣生による FLAP 留学レポートをもとに再構成したものです。